

SI A F 2017

SAPPORO INTERNATIONAL ART FESTIVAL

札幌国際芸術祭2017

テーマ / 開催概要発表

本資料についてのお問い合わせ

札幌国際芸術祭事務局（担当：宮岡、岡本、山岸）

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市国際芸術祭担当部内

TEL: 011-211-2314 | FAX: 011-218-5154 | E-MAIL: press@siaf.jp

WEB: <http://siaf.jp>

目次

02	ごあいさつ
03	テーマ
04	開催概要
05	札幌国際芸術祭2017開催までのスケジュール
06	2016年度からスタートする継続プロジェクト
08	SIAF2017スペシャル・ビックバンド(企画チーム)
11	エリアおよび会場紹介
13	2016年度のプレイベント
14	SIAFラボ

ごあいさつ



文化芸術は、人々が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していく上で、欠くことができないものです。

そして、文化芸術が提供する創造的な視点は、新たな産業の創出や地域の魅力向上にとって大きな力となります。

こうした基本認識から、札幌市は、市民の創造性を核としたまちづくりを推進するため、2006年3月に「創造都市さっぽろ」宣言を行い、2013年11月にはアジア初のメディアアーツ都市として、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を果たしました。

一方、創造都市さっぽろの理念に呼応する形で、市民主体による国際的な芸術祭開催に向けた展覧会が実施されるなど、札幌国際芸術祭の開催に向けた機運の高まりもありました。

こうした官民の取組が実を結び、2014年に札幌国際芸術祭が初開催され、以降3年ごとの継続開催を目指しています。

第2回となる札幌国際芸術祭2017では、参加型プロジェクトにおいて多くの経験と優れた手腕をお持ちで、音楽の領域に留まらない幅広い芸術活動を国際的に展開されている、音楽家の大友良英氏をゲストディレクターにお迎えしました。

大友ゲストディレクターの指揮の下、ホストである私たち札幌市民が、一緒に芸術祭を作っていくことで、私たちのまち札幌の魅力を再発見し、その魅力を広く国内外の皆さんに知っていただく機会となることを願っています。

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 会長

札幌市長 秋元 克広

札幌国際芸術祭2017 テーマ

「芸術祭ってなんだ？」

2回目になる札幌国際芸術祭のテーマは「芸術祭ってなんだ？」です。

今回ゲストディレクターへの就任依頼が来たときに、わたしがまず最初にひっかかり、そして今も考え続けているのが「芸術祭ってなんなのか」ということです。「芸術」ってなんなのでしょう。それが「祭り」になるってどういうことなのでしょう。

震災後、わたしが取り組んできた活動の中でも、とりわけ大きな比重を占めてきたのが、これまでにない新しい「祭り」の創出でした。ここでいう「祭り」とは単に歌ったり踊ったりの場を作るのではなく、いや、それももちろん重要ですが、なにより、参加する前と後とで世界の見え方が一変するくらいの、そんな強烈な場を自分たちの手で作り出すことが、わたしの考える「祭り」です。今回はここに「芸術」や「国際」、そして「札幌」が加わります。さて、どうしていったらいいものか。

そんなことを考えれば考えるほど、これらの問いに対して自分一人で考えて、答えを出すのはもったいないと思うようになりました。市民参加の芸術祭ですから、市民の数だけ答えがあるはずで、こうした問いに対して、

正解がひとつである必要なんてないと思います。正解とか、正論を探すのではなく、実際に手を動かし、誰かと何かを作るところから見えてくる何か、感じる何かであつたほうがいい、わたしはそう考えています。100人いたら100通りの発想があり、それらが同じ方向を向かなくなつていい。むしろ向かないことで、ときに相互に反応しあいながらノイズが生まれたり、予想もできないとんでもないモノが生まれたり。そして、それを「豊かさ」として受け入れていく大きな度量の芸術祭でなければ、世界の見え方なんて変えられるはずがありません。

でっかい北の大地を舞台にした始まったばかりの芸術祭です。札幌や北海道の人たちがこれまでつくってきたものや、前回の芸術祭の残してくれたものを生かしつつ、耳をすまし、目をこらし、体で感じつつ、おおらかに、ときにやんちゃに、ここでしかできない「芸術祭」をみなでつくっていきませんか。やれ美術ではこうだ、音楽ではこうだなんてことは二の次にして「札幌ではこうだ!」と言えるような新しい「芸術祭」を目指してみませんか。ここで出会ったみなさんとならそれができそうな、そんな素敵な予感がしています。

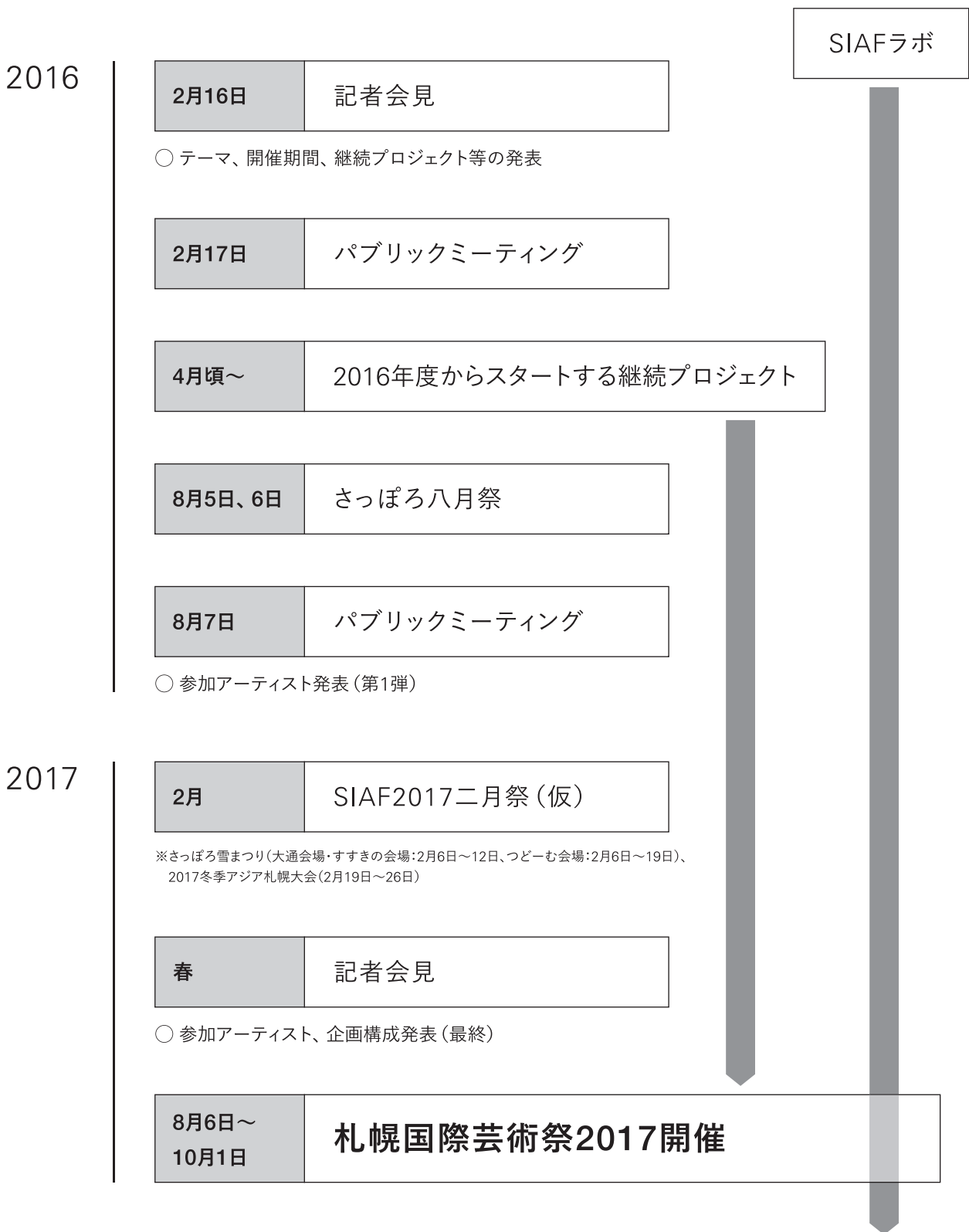
札幌国際芸術祭2017 ゲストディレクター 大友 良英

開催概要

2016.2.16現在

名称	札幌国際芸術祭2017 (SIAF2017) ^{サイアフ}
テーマ	芸術祭ってなんだ？
開催期間	2017年8月6日(日)～2017年10月1日(日)【57日間】
会場	すすきのエリア / 狸小路エリア / 円山エリア 札幌芸術の森 / 札幌市資料館 / モエレ沼公園 ほか
SIAF2017 スペシャル・ビッグバンド (企画チーム)	バンドマスター (ゲストディレクター) 大友 良英 調律 (エグゼクティブアドバイザー) 沼山 良明 バンドメンバー (参加メンバー) 漆 崇博、上遠野 敏、木野 哲也、坂口 千秋、佐藤 直樹、中島 洋、端 聡、 細川 麻沙美、マユンキキ (マレウレウ)、宮井 和美、藪前 知子 (五十音順)
2016年度からスタートする 継続プロジェクト	大風呂敷プロジェクト さっぽろコレクティブ・オーケストラ 芸術祭はまちなかに出ますプロジェクト 札幌国際芸術祭デザインプロジェクト 一緒につくろう芸術祭公募プロジェクト SIAF2017 アーティスト・イン・レジデンスプロジェクト
主催	創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会

札幌国際芸術祭2017開催までのスケジュール



2016年度からスタートする継続プロジェクト

○大風呂敷プロジェクト

各地から集まった色とりどりの布地が縫い合わされた大風呂敷。広大な芝生の上に敷かれたこの大風呂敷を舞台に、2011年「プロジェクトFUKUSHIMA!」が立ち上げた「フェスティバルFUKUSHIMA!」は、その後福島から拡がり各地に展開、SIAF 2014の特別プログラムとして札幌市北3条広場でも開催されました。この祭りを象徴する「大風呂敷」が、市民・道民と一緒につくる芸術祭を象徴するプロジェクトとして始動します。

大風呂敷を制作する風呂敷工場を複数設け、皆さんから提供していただいた布地を縫い合わせ、巨大な大風呂敷を制作していきます。縫い上げられた大風呂敷は、期間中、市内の様々な場所に展開されSIAF2017を彩ります。



撮影：小牧 寿里

○さっぽろコレクティブ・オーケストラ

さっぽろコレクティブ・オーケストラは、SIAF2017の開催をきっかけに結成される、中学生・高校生を中心としたオーケストラです。オーケストラのメンバーは公募などによりますが、参加にあたって、楽器の演奏経験の有無は問いません。それぞれのメンバーが発する楽器の音や声などを実際に組み合わせながら、オーケストラとしての編成、楽曲を自らかたちづくっていくことを目指しています。

このプロジェクトは2年計画で進めます。2016年度は、複数回のワークショップを重ね、さまざまな音楽の実験を行います。2017年度にはオーケストラを編成し、SIAF2017期間中に初演を予定しています。このプロジェクトを通して、北の大地のように広々と伸びやかな音楽を拓きたいと考えています。

○芸術祭はまちなかに出ますプロジェクト

札幌の都市化を支えてきたすすきの、狸小路、そして、国の天然記念物である円山原始林を擁する円山エリアなど、札幌が誇る都市の魅力と自然の豊かさを感じられる「まちなか」を芸術祭の主要会場に位置付け、作品の展示などを行います。このプロジェクトを通じて、札幌の成り立ちや魅力を再認識する機会を提供するとともに、多くのみなさんに「まちなか」を巡ってもらい、地域の活性化にもつなげていきます。



撮影：クスメリカ

○札幌国際芸術祭デザインプロジェクト

SIAF2017を広く発信するデザインは、ワークショップを通じて、芸術祭のテーマに相応しいデザインの考え方を整理し、まずはシンボルマークに繋げていきます。同時に、サインや看板といった必須のデザイン要素やコミュニケーションのためのデザインを共同作業として組み立てていく予定です。結果だけでなく、その過程を重視することにより、アーカイブについても学習と実践の機会となることを目指します。

○一緒につくろう芸術祭公募プロジェクト

SIAF2017では、開催期間中に北海道内の団体、個人が札幌市内で実施する展覧会やイベントなどを広く募集します。大友ゲストディレクターを含む審査員が、応募のあったプランの中から5～10程度を選定し、芸術祭の公式事業として位置づけ、実施に至るまでをサポートしていきます。この公募プロジェクトを通じて、市民・道民のみなさんと一緒に考え、つくりあげる芸術祭を実現していきたいと考えています。

○SIAF2017 アーティスト・イン・レジデンスプロジェクト

SIAF2017へ向けて、アーティストが札幌市のアーティスト・イン・レジデンスの施設であるさっぽろ天神山アートスタジオを活用しながら、長期的な滞在及びリサーチを行います。それを基に、アーティストが発見する札幌を生かした、作品制作が行なわれる予定です。

市民との協働に向けてゲストディレクターからの提案

SIAF2017スペシャル・ビッグバンドを結成します

今回のメインテーマは、芸術祭そのものに疑問を投げかける「芸術祭ってなんだ?」です。だとしたら「誰と一緒に考えて、どうつくっていくのか」のプロセスそのものが芸術祭の最大の要になるべき…そう考えるようになりました。そして、一緒に考えていく人たちは、他ならぬ札幌市民や北海道民のみなさん、そしてこの芸術祭に興味を持ってくださる世界中のみなさんでなければ「芸術祭ってなんだ?」の問いが生きたものにならないだろうと思うようになりました。

ということで、バンドのようなものを結成することにしました。名付けて「SIAF2017スペシャル・ビッグバンド」です。といっても、一緒に音楽を演奏するわけではありません。芸術祭を考えていくための母体をビッグバンドと呼んでみたらどうなるか。わたしの役目をバンマスに例えたらどうなるか。そんなちょっとした悪戯を試みたくなりました。様々なバックグラウンドをもつバンドメンバーたちが集まって、彼ら、彼女らの人脈を生かしつつ、多くの人たちを巻き込みながら、トークのジャム・セッションを繰り返していく。そんななかで、思いもしないグループが生まれたり、予想外のノイズになったり、そのノイズを楽しんだり。このバンドがやがて盆踊りのお囃子のように機能し、お囃子にあわせて踊りがはじまりますが、次第にその中心はバンドではなく、踊っている一人一人、つまり参加者になっていく。そんなプロセスを見せていくことが、そのまま芸術祭の姿になっていけばいいなという思いをこめて「SIAF2017スペシャル・ビッグバンド」を結成することにしました。バンドなんで、メンバーが加わったり、脱退したり、解散したり、再結成したりがあるかもしれませんが、なにがあろうと、あくまでも主人公は広場に集まるみなさんになればいいなと思っています。ということで、このバンドの結成を宣言するところから札幌国際芸術祭2017を始めたいと思います。

大友 良英

SIAF2017スペシャル・ビッグバンド（企画チーム）

バンドマスター（ゲストディレクター）

大友 良英 おおとも よしひで（音楽家）

1959年、神奈川県横浜市生まれ。

実験的な音楽からジャズやポップスの領域までその作風は多種多様、その活動は海外でも大きな注目を集める。また映画やテレビの劇伴作家としても数多くのキャリアを有する。近年は「アンサンブルズ」の名のもと、様々な人たちとのコラボレーションを軸に展示作品や特殊形態のコンサートを手がけると同時に、一般参加型のプロジェクトにも力をいれている。震災後は十代を過ごした福島でプロジェクトを立ち上げ、現在も様々な活動を継続中。2012年には、「プロジェクトFUKUSHIMA！」の活動で芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年、「あまちゃん」の音楽でレコード大賞作曲賞他数多くの賞を受賞している。2014年、独立行政法人国際交流基金アジアセンターとともに「アンサンブルズ・アジア」を立ち上げ、音楽を通じたアジアのネットワーク作りに奔走している。

札幌との縁は古く、1980年代、札幌で長年にわたり、個人で前衛音楽を紹介しつづけて来たNMA (NOW MUSIC ARTS) の沼山良明に見いだされたことが音楽家としてのキャリアの重要なスタートとなる。1990年以降は、NMA企画で、毎年のように札幌を訪れ、今日に至るまで様々な音楽企画に参加、出演している。

また震災後、福島から移住して来た「たべるとくらしの研究所」の安齋伸也の強い働きかけで、2012年以降、札幌でも「プロジェクトFUKUSHIMA！」の活動を展開してきたことがSIAF2014にとりあげられ、これが札幌市北3条広場で毎年行われる「さっぽろ八月祭」を生むきっかけとなった。これらの活動が注目され、昨年、SIAF 2017のゲストディレクターに指名される。



撮影：佐藤 類

調律（エグゼクティブアドバイザー）

沼山 良明 ぬまやま よしあき（NMAコンサート・オーガナイザー）

1944年、北海道夕張郡由仁町生まれ、札幌市在住。

本業はピアノ調律師。70年代後半、ジャズ評論家・副島輝人氏との出会いなどで前衛音楽に関心を深め、1983年ドイツのメルス・ニュージャズ祭を観て、世界と日本の音楽情報のギャップに目覚めたことから、同年NMA (NOW MUSIC ARTS) を発足。国内外の先鋭的な音楽を札幌に紹介するコンサートを企画、開催している。

これまでに170回のコンサート（6回のフェスティバルを含む）を開催したほか、1995年から2000年には、即興演奏のワークショップを毎月開催。執筆などでは『ジャズ批評』、『ユリイカ』誌ほか、毎日新聞北海道版『ハルニレ』（1997-2001）、北海道新聞夕刊コラム『されど音楽』（2015）、コミュニティFMさっぽろ村ラジオで音楽番組を担当（2003-2006）。2012年より、ACF札幌芸術文化・フォーラムにて「ACFアートサロン」担当。2013年、サッポロ・アートラボ主催「第2回北の聲アート賞特別賞」受賞。



バンドメンバー（参加メンバー）

漆 崇博

うるしたかひろ

コーディネーター

1977年、北海道生まれ。石狩市在住。北海道各地でのアーティスト・イン・スクール事業のコーディネーターを中心に、香川県観音寺市におけるまちづくり事業、トヨタ・子どもとアーティストの出会い事業、北海道コミュニケーション教育ネットなど芸術文化を媒介とした事業運営を行う。SIAF2014では、プロジェクトマネージャーとしてボランティア運営や、札幌市資料館でアクティビティ拠点プロジェクトの取りまとめを担う。また、コミュニティスペースオノベカ、さっぽろ天神山アートスタジオ、札幌市資料館におけるSIAFラボの運営・企画コーディネーターなどその芸術文化振興の活動は幅広い。一般社団法人AISプランニング代表理事。

上遠野 敏

かとおの さとし

美術家／札幌市立大学教授

1955年、福島県生まれ。札幌市在住。東京芸術大学、大学院修了。札幌市立大学、大学院で教授。2004年から空知産炭地域の炭鉱遺産を活用したアートプロジェクト「奔別アートプロジェクト2014」などのアートディレクター兼作家として地域活性化に取り組んでいる。「ネ・申・イ・ム・光景」シリーズとして日本全国の神仏の現れを撮影した写真作品にも取り組んでいる。主な展覧会に、「北日本の5人作家達」（ハンブルク総合芸術館カンプナーゲル [ドイツ]、2001）、「北の創造者たち 虚実皮膜」（札幌芸術の森美術館、2003）、「Interaction」相互作用（エルンスト・バラッハ美術館 [ドイツ]、2005）、「FIX MIX MAX! 現代アートのフロントライン」（北海道立近代美術館、2006）、「夕張清水沢アートプロジェクト」（旧北炭清水沢火力発電所跡、2011）、「Distant Observations Fukushima in Berlin」（ドイツ・クンストラウム・クロイツベルク・ベタニエン [ドイツ]、2014）、「札幌国際芸術祭 2014」（500m美術館、2014）など。

木野 哲也

きの てつや

ディレクター

1978年、北海道稚内市生まれ。北斗市出身、札幌市在住。芸術文化分野における様々な領域の企画・制作・運営を实践。各地域でのプロジェクトの経験を活かし、現在まちづくり関連事業にも携わる。これまでに携わった主な企画・プロジェクトとして、「Sons and Daughters of Light」（札幌市内各所、2002）、「DIALOG IN THE DARK Showcase in Sapporo」（北方圏学術情報センター、2005）、「OKI DUB AINU BAND Japan Tour」（日本各地、2008）、「THE BEGINNING」（札幌PARCO新館、2011）、「飛生の森づくりプロジェクト／TOBIU CAMP」（飛生アートコミュニティ、白老町、2011～）、「FABULOUS WALL」（ファビュラス、2012～）、「ILL POP COMMUNICATION」（Artery Post-Modern Gallery、バンコク [タイ]、2012）、「さっぽろ八月祭 2015」（札幌市北3条広場、2015）、「江別市旧ヒダ工場再活性化プロジェクト」（旧ヒダ工場、2015）など。

坂口 千秋

さかくち ちあき

コーディネーター

鹿児島県出身。現代美術関連のコーディネーター、企画、編集、ライターなど。美術館から路上までさまざまなアートの現場に関わる。関わった主な展覧会に、とちか現代アート展「デメーテル」（帯広、2002）、第2回横浜トリエンナーレ（横浜市内、2005）、大友良英「Ensembles 09」（旧練成中学校屋上ほか、2009）、MOTコレクション 大友良英+青山泰知+伊藤隆之《without records mot ver. 2015》（東京都現代美術館、2015-2016）、「誰が世界を翻訳するのか？」（金沢21世紀美術館、2015）など。2014年、さっぽろ天神山アートスタジオの立ち上げスタッフとして半年間札幌に滞在。「プロジェクトFUKUSHIMA!」美術部メンバー。アート&カルチャーマガジン『VOID Chicken』共同編集発行人。

佐藤 直樹

さとう なおき

アートディレクター／
多摩美術大学教授

1961年、東京都生まれ。北海道教育大学卒業後、信州大学で教育社会学・言語社会学を学ぶ。美学校菊畑茂久馬絵画教場修了。1994年、『WIRED』日本版創刊にあたりアートディレクターに就任。1998年、アジール・デザイン（現Asyl）設立。2003～10年、アート・デザイン・建築の複合イベント「セントラルイースト東京（CET）」プロデュース。2010年、アートセンター「アーツ千代田 3331」立ち上げに参画。サンフランシスコ近代美術館パーマネントコレクション他国内外で受賞多数。個人展示として、「そこで生えている。」（Trans Arts Tokyo 2013～／大館・北秋田芸術祭2014）ほか。美学校「絵と美と画と術」講師。

中島 洋

なかじま よう

シアターキノ代表

1950年生まれ、札幌市在住。大学時代より、実験映画制作や自主上映を始め、アート、演劇、舞踊など様々な表現に関わる。同時に札幌市内にあった伝説的なフリースペース「駅裏8号倉庫」の設立運営メンバーになったことをきっかけに、札幌の芸術、文化の場作りを推進、1992年に市民出資によるミニシアター「シアターキノ」を設立。2004年に設立した地域の映像制作や映像教育を中心とする団体「NPO法人北海道コミュニティシネマ・札幌」では子ども向けの映画制作ワークショップや地域映画を制作。札幌市文化芸術基本計画検討委員など、文化行政の委員も多数務める。札幌初の国際的な芸術祭を目指す札幌ピエンナーレ・ブレ企画では企画制作委員長。SIAF2014ではボランティアとしてアート・カフェを担当する。

端 聡

はた さとし

美術家／アートディレクター

1960年、北海道岩見沢市生まれ。札幌市在住。札幌を拠点に活動する美術家。1995年ドイツ学術交流会DAADの助成によりドイツに滞在して以降、国内外で多数の個展、グループ展に出品。SIAF2014では地域ディレクターとして企画に加わる。

主な展覧会として、「ブタベスト国際彫刻絵画ビエンナーレ '96」(Vigado Gallery 他、3会場 [ハンガリー]、1996)、「VOCA展 '96-現代美術の展望・新しい平面の作家達-」(上野の森美術館、1996)、「Anstiftung zu einer neuen Wahrnehmung」(プレーメンヴェーザーベルグ現代美術館 [ドイツ]、2001)、「グローバル・プレイヤーズ-日本とドイツの現代アーティスト」(Ludwig Forum美術館 [ドイツ]、2006)、「鏡面-中日現代美術交流展-」(Renke Arts Center [中国]、2012) など。2004年、札幌文化奨励賞を受賞。2012年、北海道文化奨励賞を受賞。「あいちトリエンナーレ2016」への出品も決定している。

細川 麻沙美

ほそかわ あさみ

コーディネーター

1977年、東京都生まれ。大学にて芸術学と美術教育を学ぶ。卒業後、アーティストやキュレーターを支える立場で展覧会制作・運営に関わる。2005年、モエレ沼公園グランドオープン時の「イサム・ノグチ展」東京展を担当。SIAF2014では、モエレ沼公園ガラスのピラミッドでの展示を担当した。

これまで関わった主な展覧会として、「イサム・ノグチ展」(札幌芸術の森美術館／東京都現代美術館、2005)、「文化庁メディア芸術祭」(国立新美術館、2008～)、「art and collective intelligence」(山口情報芸術センター [YCAM]、2013)、「札幌国際芸術祭2014」(札幌市内各所、2014)、「スペクトラムーいまを見つめ未来を探す」(スパイラル、2014) など。

マユンキキ

まゆんきき

「マレウレウ」メンバー／
アイヌ語講師

1982年生まれ。北海道旭川市出身。札幌市在住。アイヌの伝統歌「ウポポ」の再生と伝承をテーマに活動する女性ヴォーカルグループ「マレウレウ」のメンバー。さまざまなリズムパターンで構成される、天然トランスな感覚が特徴の輪唱など、アイヌがルーツとなるウポポを忠実に再現するアーティスト。2010年、初のミニアルバム「MAREWREW」を発表後、活動を本格化。2011年に自主公演企画「マレウレウ祭り～目指せ100万人のウポポ大合唱!～」をスタートさせ、これまでUA、サカキ・マンゴー、SPECIAL OTHERS、キセル、オオルタイチ+ウタモ、木津茂理、細野晴臣、後藤正文 (AKG) を迎え、その公演が話題となっている。

宮井 和美

みやい かずみ

キュレーター

1978年、北海道生まれ。札幌市在住。2001年金沢美術工芸大学美術工芸学部美術科芸術学専攻卒業。2003年からモエレ沼公園学芸員。公園という開かれた場での創造活動の可能性を探る。専門はコンテンポラリー・アート。

これまで企画、担当した主な展覧会・アートプロジェクトに「SNOWSCAPEMOERE」(2005-2012)、「イサム・ノグチ あかり展」(2010)、「Walking歩行という経験」(2011)、「大黒淳一 ハルモニア」(2012)、「佐々木秀明 Droplets Garden」(2013)、「狩野哲郎 あいまいな地図、明確なテリトリー」(2013)、「札幌国際芸術祭2014」(2014)、「想像の山脈」(2015)、「吉田夏奈 プルメリアに映る雪」(2015、以上モエレ沼公園) などがある。

藪前 知子

やぶまえ ともこ

キュレーター

1974年、東京都生まれ。東京在住。東京都現代美術館学芸員。2004年から展覧会やコレクションの仕事に携わる。キュレーションの他に、雑誌等に寄稿多数。現代美術に留まらず、ファッション、音楽など周辺領域の境界にあるようなジャンルに規定されない表現についての仕事も多い。

これまで担当した主な展覧会は、「大竹伸朗 全景 1955-2006」(2006)、「MOTコレクション 特集展示 岡崎乾二郎」(2009)、「MOTコレクション クロニクル1995-」(2014)、「山口小夜子 未来を着る人」(2015)、「おとなも子どもも考える ここはだれの場所?」(2015、以上東京都現代美術館)、「Omnilogue: Your Voice is Mine」(シンガポール国立大学美術館 [シンガポール]、2013) など。

エリアおよび会場紹介

2016.2.16現在



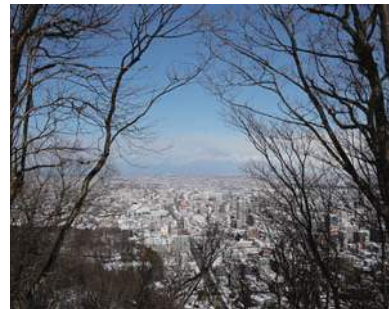
A すすきのエリア

歌舞伎町(東京都新宿区)、中洲(福岡市)とともに、日本三大繁華街とも言われる「すすきの」。明治初期、札幌建設のために開拓判官であった岩村通俊によって遊廓地域として指定されたことがすすきのの発祥です。1920年(大正9年)には札幌市の人口増加と市街地の拡大により、遊廓は白石(現在の菊水地区)へと転移、遊廓跡にはカフェ・バーなどの飲食店が立ち並び、現在のすすきのの基礎がつけられました。すすきのの夜の人口は8万人とも言われ、現在では飲食店ビルが林立し、かつての様子を垣間見ることが難しくなっています。SIAF2017では、昼のみならず夜も楽しめる芸術祭をこのエリアを中心に展開する予定です。



B 狸小路エリア

札幌の街の中心部を東西にのびる7ブロック総延長約900m・店舗数約200軒の商店街を有するエリアです。1873年(明治6年)から続く狸小路商店街は地下街から直接アクセス可能で、アーケードにより雨や雪など天候に左右されない利便性の高さから、地元住民の日用品の買い物や、海外観光客の観光・お土産購入スポットとして賑わっています。また、2015年(平成27年)12月の市電ループ化により、狸小路に停留所が新設され、利便性がさらに高まりました。SIAF2017では、みなさんからのアイデアを取り込みながら、この商店街と市電などを活用し、芸術祭を盛り上げる予定です。



C 円山エリア

札幌の市街地から西に位置する円山と、その周辺に広がる円山地区は、札幌中心部からほど近い場所にありながら、特別天然記念物に指定される円山原始林や、円山公園を擁する自然豊かなエリアです。開拓判官の島義勇は、円山より眼下に広がる平地を見て札幌の街を構想したとも言われており、1871年(明治4年)には円山の山麓に札幌神社(現・北海道神宮)が建立されました。また、円山エリアにはお洒落なカフェやレストランをはじめ、ギャラリーや美術館などが点在しており、人気の街歩きスポットの一つとなっています。SIAF2017では、子どもから大人まで楽しめる人気スポットの円山動物園も見所のエリアになる予定です。

D 札幌芸術の森

札幌市南区芸術の森2丁目75

札幌芸術の森は、北方の新しい芸術・文化の創造を目指すため、1986年(昭和61年)7月27日にオープンしました。札幌市の南の丘陵地にあるこの札幌芸術の森は、その名前にふさわしい豊かな自然環境のなかにあり、広さ40haにおよぶ敷地には、美術館や工房など、鑑賞、発表、制作、研修、情報交流の機能を備えた各種芸術施設が点在しています。SIAF2014では、「都市と自然」をテーマに10名の作家が参加する展覧会が開催されました。SIAF2017では、前回活用されなかった施設も視野にいれ、更なる展開を考えています。

E 札幌市資料館

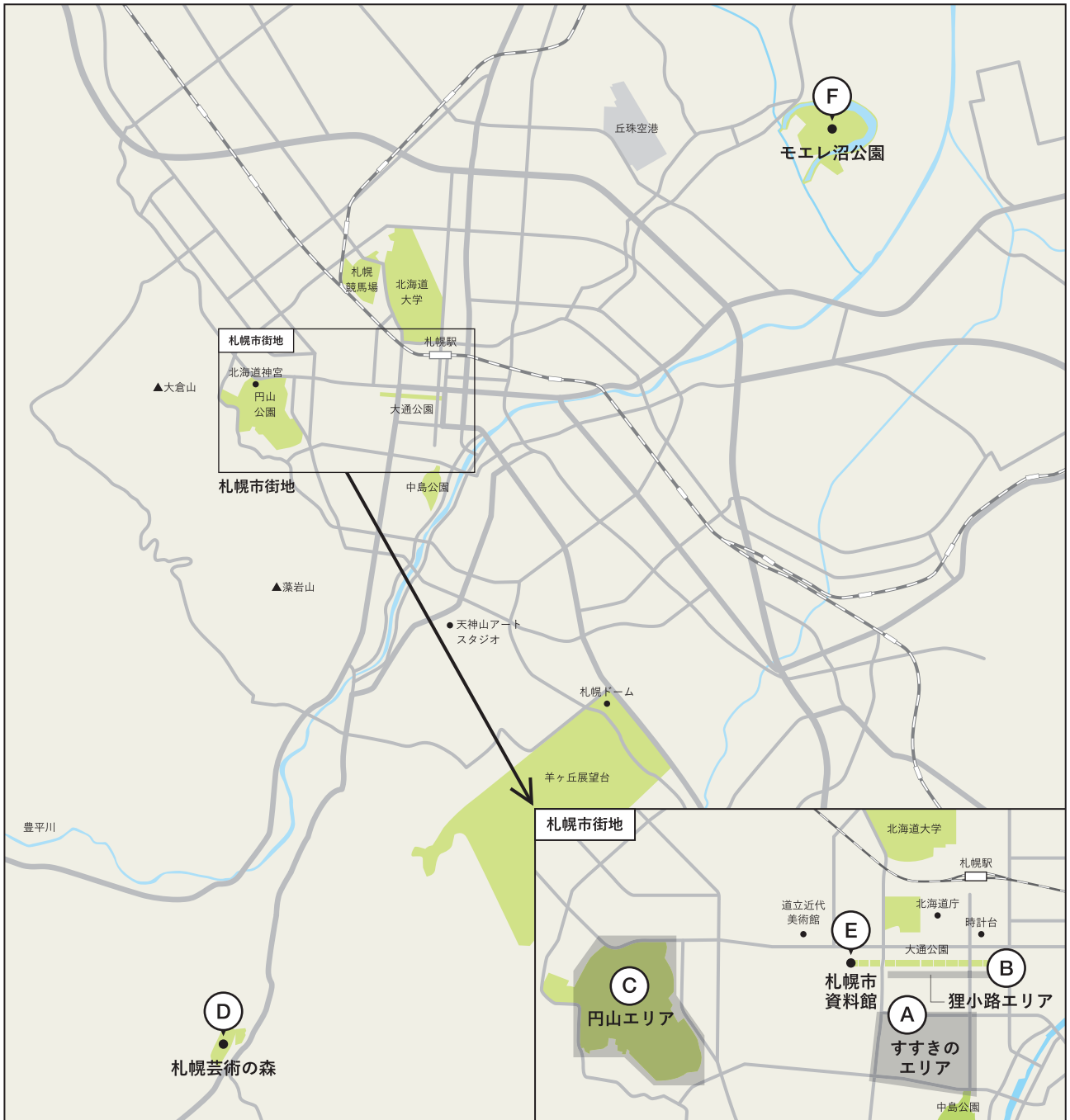
札幌市中央区大通西13丁目

1926年(大正15年)に札幌控訴院(のちの札幌高等裁判所)として建てられた建物で、1973年(昭和48年)3月の裁判所の移転に伴い、同年11月に札幌市資料館として開館しました。以来、札幌の歴史などを紹介する施設として広く親しまれています。また、札幌軟石を使った建物として全国的に貴重なものであり、1997年(平成9年)5月には国の登録有形文化財となりました。SIAF2014では、ボランティア、参加型プログラムの拠点として賑わいました。2015年(平成27年)には、SIAFラウンジとSIAFプロジェクトルームがオープンし、札幌らしい芸術祭の実現に向けて活動を続ける「SIAFラボ」の拠点として、様々なプロジェクトを開催しています。

F モエレ沼公園

札幌市東区モエレ沼公園1-1

彫刻家イサム・ノグチが基本設計を行い「公園全体をひとつの彫刻作品」とするダイナミックな構想により造成が進められた公園です。イサム・ノグチがデザインした120基以上の遊具のある7ヶ所の遊具エリアや、石狩平野を囲む山脈を一望できるモエレ山や、プレイマウンテンなど、一年を通して市民に愛される施設です。SIAF2014では、ガラスのピラミッド「HIDAMARI」にて大規模なメディア・アートのインスタレーション作品が公開されました。SIAF2017でも空間と規模を活かしたプロジェクトが展開される予定です。



札幌市について

札幌市は、北海道の中心都市として、人口約195万人（北海道の総人口の約3割）を擁する、全国5番目の都市です。1869年（明治2年）に北海道開拓の拠点が置かれたのが札幌の始まりで、約150年という短期間で発展を遂げました。

四季の移り変わりが鮮明な街である札幌。新緑や花々が美しい春、湿度が低く過ごしやすい夏、錦絵のような紅葉が楽しめる秋、そして、雪に化粧された美しい冬景色と、季節によって様々な表情を楽しむことができます。国内の住みたい街ランキング（※1）では常に上位に位置し、2015年（平成27年）10月には、長崎、神戸とともに日本新三大夜景都市にも認定されました（※2）。また、「さっぽろ雪まつり」に代表される多彩な催しや、採れたての野菜・果物、新鮮な海の幸による豊かな食文化により、国内外から多くの観光客が訪れる国際観光都市です。

※1「生活ガイド.com」調べ ※2 一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューロー認定





撮影：ハレバレシャシ

2016年度のプレイベント

さっぽろ八月祭

SIAF2014で行われた「フェスティバルFUKUSHIMA!北3条広場で盆踊り」を引き継ぎ、2015年、札幌駅前通地区に新たに誕生したお祭り「さっぽろ八月祭」。

2016年の八月祭ではこれまでの盆踊りや、市民で作り上げる「オーケストラSAPPORO!」などに加え、SIAF2017開催まで1年を記念してスペシャルイベントも実施します。

日程：2016年8月5日（金）、6日（土）

会場：札幌市北3条広場（アカプラ）

主催：札幌駅前通地区活性化委員会（事務局：札幌駅前通まちづくり株式会社）

共催：創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会



撮影：ハレバレシャシ

パブリックミーティング

大友ゲストディレクターが、SIAF2017の参加アーティストや展望、企画概要を発表します。また、第2部では、市民と一緒にSIAFについて考えるパブリックミーティングを開催します。

日程：2016年8月7日（日）

会場：札幌プラザ2・5（札幌市中央区南2条西5丁目）

SIAF2017二月祭（仮）

海外からの観光客が多く訪れる「さっぽろ雪まつり」やアジアの45の国と地域が参加する総合国際スポーツ大会「2017冬季アジア札幌大会」の開催に合わせ、PRイベントを実施します。

日程：2017年2月

会場：未定

SIAFラボとは、札幌市資料館に開設された「SIAFラウンジ」と「SIAFプロジェクトルーム」の2つのスペースを活動拠点として、札幌らしい芸術祭を実現していくために、市民一人ひとりにとっての「札幌」を考え、発見、発信していくプロジェクトの総称です。

さまざまなプロジェクトを通じて、SIAFの活動の担い手となる多彩な人々(アーティスト、キュレーター、研究者、コーディネーター、市民活動団体、ボランティアスタッフなど)を繋ぎ、共に考え、学び合う場として機能することで、札幌市内において主体的、自発的な札幌独自の芸術文化活動が育まれるきっかけを創出します。そして、子どもからお年寄りまで、多くの市民がSIAFに関心を持ち、理解を深めるための「出会い」と「発見」に満ちた場となることを目指します。



撮影：クスメエリカ

これまでの取り組み

2015年にスタートしたSIAFラボでは、これまで現代美術や札幌について様々な視点から考えるレクチャー、アートに関する現場で活躍する専門家によるトーク、プログラミングを体験するワークショップなど、年間を通じて8つのプログラムを継続的に展開しています。また、展覧会「SIAFラボ アーティストセレクション クワクボリョウタ《LOST#13》」を開催するなど、現代美術やメディア・アートに触れる機会を創出しています。

これからの展開

札幌・北海道の暮らしとアートを題材に、北海道内で特徴的な活動をしている芸術文化団体、施設などの情報や、札幌ならではの市民活動の情報を収集・編集、発信するプログラムを実施予定。また、コーディネートやボランティア運営など、SIAF2017で展開される様々な活動を牽引する人材を発掘、育成するスクール形式のプログラムも予定しています。札幌独自の文化活動を支える環境を多角的に調査、分析し、その可能性や機能を拡張していきます。



本資料についてのお問い合わせ

札幌国際芸術祭事務局（担当：宮岡、岡本、山岸）

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市国際芸術祭担当部内

TEL: 011-211-2314 | FAX: 011-218-5154 | E-MAIL: press@siaf.jp

WEB: <http://siaf.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/siaf2014info>

Twitter: https://twitter.com/siaf_info